

様式 4

令和 8 年度第 2 回 富士見市社会教育委員会議 議事録						
日 時	令和 8 年 5 月 1 9 日（火） 開会 午後 7 時 0 0 分 閉会 午後 9 時 2 0 分					
場 所	富士見市立中央図書館 2 階 視聴覚ホール					
出 席 者	委員	渡邊（知）委員	関野委員	戸田委員	深瀬委員	本田委員
		○	○	○	○	○
		八木橋委員	河村委員	檜山委員	亀森委員	
		○	○	○	○	
	事務局	生涯学習課長、副課長、主任				
公開・非公開	公開（傍聴者 0 人）					
議 題	1 あいさつ 2 協議事項 ・ふじみ野市の事例ヒアリングの振り返り ・“富士見市”の地域学校協働活動について 3 その他					

議 事 内 容

1 挨拶

2 協議事項

【議 長】 前回、講義を受けたふじみ野市の事例を振り返り、市の地域学校協働活動（以下「協働活動」）の方向性について協議していきたい。
ふじみ野市の事例を受け、各委員の意見をまとめて分類した資料から、1点目「良い点、取り入れたい点」、2点目「課題、違和感を感じた点」、3点目「富士見市の強みとして再認識した点」、4点目「富士見市が目指すべき地域学校協働本部（以下「本部」）のあり方」の、4点について整理していきたい。

（１）1点目「良い点、取り入れたい点」、2点目「課題、違和感を感じた点」

【議 長】 1点目と2点目の中に同じ内容が挙がっている部分もあるので、2点をまとめて検討する。

まず、ふじみ野市の「本部」を設置してない点に対して、「本部」は設置した方が良いという意見と、「本部」は設置せずにコーディネーター（以下「Ｃｏ」）同士の繋がりを重視している点が良いという、正反対の評価・意見があったので、この点について伺いたい。

【委 員】 文科省のコミュニティスクール（以下「コミスク」）と「協働活動」の冊子には、「本部」はネットワークみたいなものとあり、実態の組織ではないようにも書かれている。

前回、ふじみ野市に「本部」は組織化すべきか聞いた際に、組織ではない方がよいと言っていたと思う。

【委 員】 「本部」がないと活動が不調の時に「Ｃｏ」が困るのではないか。
また「本部」がないと「Ｃｏ」の管理に問題が生じないか。

【委 員】 「本部」を置かず「Ｃｏ」のネットワークにすることについては、否定的・肯定的な二面がある。

行政職員が加わることや、「Ｃｏ」が主体的に動くことについても、賛否両方の意見がある。

【委 員】 「本部」が存在することで活動がやりにくくなっていけない。
ふじみ野市のよい部分を取り入れることを目指したい。

【議 長】 行政の関わり方もポイントだと思う。

「Ｃｏ」主体でも、どの程度まかせるか、または統制するのか。

【委 員】 「Ｃｏ」にうまく対応してもらえるような仕組みが必要なので、「本部」は必要だと思う。

【委 員】 「Ｃｏ」主体の場合、活動が不調の時に、どう対応するのか。
仕組みを考えておかないといけない。

【委 員】 文科省の冊子には、「Ｃｏ」の活性化のために、「本部」に統括的な「協働活動」推進員を置き、全体を見ることが書かれている。

【議 長】 江東区でコーディネートをしている知人が、学校単位の「Ｃｏ」を横断するスーパーバイザー的な人がいるという話をしていた。

各校に存在する地域「C o」をサポートする存在は必要かもしれない。

【委員】 学校運営協議会（以下「協議会」）を中心に考えると、「協議会」があって「本部」が存在する。

「本部」独自の活動は思いつかないので、当面は置かずに、まず「協議会」を始め、様子次第で整えるのも現実的ではないか。

【委員】 「コミスク」が始動してから不安な部分も出てくると思う。

困ったときに相談できるところは必要だと思う。

行政でも、またはプールのなもので「本部」は置いた方が良い。

【委員】 「協議会」と「本部」の委員の兼務は避けるようにして、様々な視点から、「コミスク」と子どもたちと地域を、どう繋げていくか。

それらの繋がりとあわせて、市として全体をみるために「本部」があった方がいいと思う。

【委員】 ふじみ野市の各学校には「協議会」と一緒に活動する「C o」がいて、「本部」組織はないが、困った時の相談は社会教育課が窓口になっている。

「C o」の力量に頼ると、運営委員会を含めた様々な活動をしていく上で、いい人を選べればよいが、そうではないときに、いくら周りの人と交流を持ったとしてもつらいものが出てくると思う。

「本部」があれば色々と相談ができる。

悩みを吸い上げる場としても「本部」はあった方がよい。

【委員】 「本部」は中央に一つあるイメージ。

学校と地域が同規模の大きさである点には違和感がある。

「協議会」は学校中心になりがちになるのでは。

中央に本部が一つでなくても、中学校区や公民館区の中で地域の方の話し合いをする土台があって、そこに学校も参加するような仕組みがないと、「協議会」が学校からの願い事を聞く場になってしまうと思う。

地域の声を吸い上げる、地域の願いを聞く、地域が主役になる場が必要だと考えている。

【議長】 「本部」としてどういう形がいいかという点は議論していきたい。皆さんの発言から、学校単位での「本部」組織はいらないが、学校単位で活動する人たちを支援する、市レベルの上位組織として「本部」があった方がいいとの考えだと思う。

教員の負担軽減は必要だが、学校支援の視点だけでいいのか。

地域を支援するという視点がなくていいのかと考えている。

（２）３点目「富士見市の強みとして再認識した点」

【委員】 市では手話やレスリングなど色々取り組んでいるが、これといった特色がないと思う。

そこを逆手に取って、他市と異なるアプローチができるのではないかと思うし、強みになるのではないかと考えている。

【委員】 埼玉県内の「協働活動」実践交流会の資料を見たが、市内ですで

に実施しており、目新しいものはない。

パーツはほとんど揃っているので、あとはリードする人のビジョンとか、統率力とかアイデアとかがあればよく、新たなことを始める必要はないと思う。

【委員】 市では学校支援者協議会のメンバーに地域住民を含めた様々な人が含まれているため活用しやすいと思う。

【委員】 公民館、その他の地域活動、地域団体の活動など社会教育が基盤としてできている。

この基盤を活かしていくのがよい。

(3) 4点目 富士見市が目指すべき地域学校協働本部のあり方

【委員】 市内でも地域差があるため、弱みの部分を底上げして均一化することも必要と考えている。

【委員】 市の給食は、市内の食材や姉妹都市であるセルビア料理の導入など特色がある。

「協働活動」についても振り返ったときに「富士見市だからこのようなことができた」といえるような活動をしていきたい。

バドテニスや「青春賦」、手話など市独自の活動も入れて地域性を持たせるのもよい。ボランティアも集めやすいのではないかな。

【委員】 人材の確保や掘り起こしが大事。

富士見市統一のものも行えとよい。

【議長】 学校の要望を聞くだけでなく、地域に対して学校は何ができるかについても考えたい。

【委員】 フジミライテラスの集まりで「コミスク」の話をしたところ、関心ある方が多数いた。

地域のなかに参加したい人は多数いると思われる。広報など周知活動を通じて気運をあげていく活動も目指したい。

【議長】 例えばフジミライテラスなどで、「C o」が依頼して地域や企業が「協働活動」に参加する。

それだけでよいかな。

【委員】 それをきっかけに違うことが始まり、発展してアップデートされていくものではないかと思う。

【委員】 フジミライテラスの参加者は、子どもたちに何かを教えたいという思いの方が強いと感じた。

例えば子どもたちと一緒に商品開発をしようとか。

現状ではそこまでの考えはないと感じたが、「協働活動」とは双方向であるのでそういうことも考えてよいのではないかなと思う。

【委員】 「協働活動」を通して市に何をもたらしたいのか。

その形を決めていくことが必要ではないか。

理念がなく形だけ作って動き出すような考えは危険ではないか。

【委員】 子どもたちに何をもたらしたいのか。

きちんと議論をするべきだと思っている。

例えばフジミライテラスでいろいろできそうな期待感はあるが、

一方で、その人たちが活動の方向性を決めていくようなことになっていけなと思う。

一部の人で先導するのは危険だと思うので、そこをきちんと、市としてどうありたいのかという部分を、いろいろな人たちと組み立てていく必要があると思う。

【議長】 市は「協働活動」で何を指したいのか。

「協働活動」は、地域と学校とが連携していく中で、子どもたちと一緒に地域も育っていくものではないかと思う。

【委員】 もっと地域の人とうまく協働しながら、子どもたちに伝えたり、そこに参加して、市の歴史を知るとか、何かそういうもので、市のものを作り上げていくのが地域協働活動ではないかと思う。

【議長】 「協働活動」を行うことで、どんな地域にしたい、どんな子どもたちを育てたい、どんな効果を得たいとか、どういう問いの立て方がよいか。

そのような点を考えると、おのずと形も決まってきた、やり方も決まってくるのではないか。

【委員】 学校教育で行われている中で、それだけでは足りないと感じていることを、「協働活動」を通して補完していくようなことが、一つの手立てだと思う。

【委員】 学校の中だけではなく、社会の色々な人と関わることで、児童・生徒が学べることもあるし、逆に児童・生徒と関わることで大人たちも新たな気づきを得たりと、そういう好循環が生まれるという期待があると思う。

【委員】 市としてこういうものを残していきたいというものを挙げていくと、その先が見えるのかなという気がする。

【委員】 地域でも児童生徒の力を借りたい。

町会の防災訓練をしても児童生徒が参加していない。

小・中学生は部活動や塾、習い事で地域行事に参加してもらえない。また猛暑で中止した子どもみこしも小学生が習い事で遠のいている。

町会長が学校に依頼して、うまい具合に取り組みができたらいと思うが、地区体育祭も町会ごとに知り合いの中学生に依頼して競技に参加してもらっている状況で、難しい部分もある。

ボランティア活動として内申書に記載できるため、昔よりは中学生が参加していると感じている。

もっといろいろなことを子どもたちと地域の行事を含めてやっていけるものが欲しい。町会長が1人発言するとかではなく、地域全体でできるようなものがあるとよい。

【議長】 学校に地域が入るとこんな素晴らしい姿になるとか、地域に子どもや学校が入るとこんなに良くなるという理想像があるとよい。その理想像としてどういうものを指したいのかを考えたい。学校と地域を一緒にものと考えるか、二つ分けて考えてもいいか。どうだろうか。

【委員】 先日、「コミュニティスクール協議会」に参加した。

「学校運営協議会」の名称が変更になり、年3回実施、委員は学校、保護者、地域の方で10人から最大15人位となる。

【事務局】 「本部」については社会教育委員会議で理念的なものを検討し、今後決めていくという形になるが、まずは学校で「コミスク」が先行して、社会教育が追いかけるようなイメージになると思う。

【委員】 「コミスク」は本校でも先週第1回目を行い、今後9月、2～3月の年3回実施する予定。

第1回目は私自身が抱いている「コミスク」あるいは「協働活動」のイメージを話した。

地域の方々は、その場で初めて聞く内容もあり、理解することも大変なので学校教育課や先生で考え研修会を6月に行い、そこで「コミスク」委員の皆さんの意識、認識の統一や共有を図っていくイメージ。

地域の方の声をもっと聞いていきたいので次回からは事前に議題を伝えた上で、活発な熟議をしていきたいと思っている。

【議長】 「協議会」は大きな方向性を決める意思決定機関であって、実行部隊が推進活動する。

推進本部か、推進「Co」なのか両者が重なるので、「Co」も、協議会メンバーに入っているのだと思う。

そのため協議会のメンバーが実行に携わることも多々あると思うが、イコールではなく、外側からもいろいろ人が入ってくるみたいなイメージではないかと思っている。

組織の形など具体的なことを考える前に、まず理念を考えていきたい。

市としてどういうものを目指すかを掲げた上で具体的な形を考えていきたいと思う。

市にいろいろな活動計画とか目標があって、子どもにフォーカスしたものがあると思う。そことフィットしているものでないといけないと思うので、計画や目標に照らして、「協働活動」をどう活かしていくか考えてもいいのではないかと思う。

今年から始まる第4次生涯学習推進基本計画の中に、考え方の方針的なものが書かれているのであれば、それを踏まえて考えた方がいいと思う。

【事務局】 富士見市子ども計画の令和7年3月の修正版がホームページに掲載されている。政策の展開の中で子どもの居場所作り、親と子の健康であるとか虐待防止などが掲げられている。

次回、関係部分をお渡ししたい。

【議長】 何かの計画で「協働活動」を紐付けられるのではないか。

そこに位置づけて考えた方がよいのではないか。

そのほか各委員がこうしたい、こうありたい、こうなってほしいという思うことを集約していくために、問いの立て方について何か意見がほしい。

やっぱりどんな地域になってほしいか、どんな子どもになってほし

いかなんだろうか。

【事務局】 富士見市第3次教育振興基本計画に基本理念があり、そこには目指す市民像を掲げている。

【議長】 市民像に掲げるような人になるということ、富士見市を好きになるということが一つ大事なことでないか。

【委員】 市に特色が全くないことを逆手にとって、できそうなところはあると思う。

シティプロモーションで人を誘致しているが、そのキャッチフレーズも「首都圏30km圏内」、「池袋まで30分以内」ぐらいしかアピールをしていない。

そうではなく、手話や遺跡、バドテニスなど、市ならではのものを引き上げていく方がよいと思う。

強みと弱みを考えたときに、強みを引き伸ばす方向で考えていくことがよいと思う。

【委員】 先ほど「本部」にいる「C o」が人を派遣するだけでいいのかという話があったが、市で均一的な「C o」を配置するために「本部」を置いて、「C o」の人材育成をすることは必要だと感じた。

【議長】 どういう組織とするかなどの形を考える前に、まず目指すべきものを考えたいと思う。

市の中でも地域ごとに課題も違うし、市民一人一人にとってこうなりたい、こうなってほしいという思いがあるので、集約はできないとしてもひとつ方向性を示して、市の第6次基本構想や第2期基本計画に沿っていくことが一つの道なのかなと思う。

第6次基本構想の1番目に、SDGsを掲げていてフジミライテラスも補足していると思うが、SDGsを学校で捉えたと、SDGsのために子どもは何ができるかという方向に行ってしまう。

そうではなく富士見市が持続可能なまちとしていくために、この地域の担い手をどうやって育てようという視点でとらえた方がよいと思う。

そういう意味で学校としても、子どもたちが未来の地域の担い手として何ができるのだろうかという視点で捉えていけば、第6次基本構想とも重なると解釈できると思った。

計画に示しているものに沿って何ができるか、あるいはゴールをそこにするというのは必要ではないかと思う。

【議長】 生涯学習課と検討して、各計画の理念との関連や目指す部分について案を考えたいと思う。

各委員もこれまでの資料で参考となる部分があれば生涯学習課に連絡してほしい。

これまでの話の中で学校単位で地域行動、「協働活動」を進めていくが、しっかりとした「本部」はふじみ野市のように置きはしないものの、「C o」に任せっきりでなく、とりまとめてくれるような、全体としての「本部」みたいなものがあつた方がいいのではないかとこの話が出ている。

改めて一旦、「本部」や組織の前に理想の姿を設定した方がよいと思う。

次回、案を示しそれを基にどういうあり方がよいか議論したいと思う。

3 その他

【委員】 前回、事務局に4月から施行する「コミスク」の資料を依頼したがもらっていない。

【事務局】 (資料を配布) そのほかにあれば後日、追加で配布します。

【議長】 各委員は読み込んできて何かあれば意見し、それに基づいて生涯学習課と協議して、最終的な目指す姿を決めていきたい。

それを踏まえて、どういう推進活動を行うのかももう一度考えていきたいと思う。

・次回開催日程

7月8日(水) 午後7時から中央図書館視聴覚ホールにて開催予定。